

令和7年12月8日23時15分頃の青森県東方沖の地震について

～「北海道・三陸沖後発地震注意情報」に伴う特別な注意の呼びかけ期間終了～

令和7年12月8日23時15分頃の青森県東方沖の地震の概要や留意事項についてもお知らせします。

なお、本日（12月16日）00時をもって、「北海道・三陸沖後発地震注意情報」発表に伴う政府としての特別な注意の呼びかけの期間は終了しました。しかし、政府から特別な注意を呼びかける期間が終了しても、大規模地震発生の可能性がなくなったわけではありません。また、先発の地震がなく、突発的に大規模地震が発生する可能性もあります。今回の対応も活かしながら、家具の固定や避難場所・避難経路の確認など日頃からの地震への備えについては、引き続き、実施してください。

地震の概要

検知時刻 (最初に地震を検知した時刻)	12月8日23時15分
発生時刻 (地震が発生した時刻)	12月8日23時15分
マグニチュード	7.5（暫定値；速報値の7.6から更新）
発生場所	青森県東方沖（八戸の東北東80km付近） 深さ 54km（暫定値；速報値 深さ約50kmから更新）
発震機構	西北西—東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震
震度	【最大震度6強】青森県の八戸市(はちのへし)で震度6強を観測したほか、北海道から近畿地方にかけて震度6弱～1を観測
長周期地震動の観測状況	青森県三八上北で長周期地震動階級3を観測

防災上の留意事項と今後の見通し

（青森県東方沖の地震に関する防災上の留意事項）

- 青森県東方沖の地震活動は、12月8日の地震発生当初は活発でしたが、時間の経過とともに低下し、当該地域で12月8日の地震と同程度の地震が発生する可能性は、地震発生当初に比べ低くなりました。
- この3日間（12月13日から12月15日）で震度1以上を観測した地震は6回ですが、身体に感じない地震も含めると平常時より地震が多い状況が継続しており、現状程度の地震活動は当分続くと考えられます。
- 12月8日の地震で揺れの強かった地域では、家屋の倒壊や土砂災害などの危険性が高まっていますので、復旧作業などを行う場合には、地震活動や降雨の状況に十分注意してください。
- 日本国内では、いつどこで強い揺れを伴う地震が発生してもおかしくありませんので、日頃からの地震への備えを心がけてください。

防災上の留意事項と今後の見通し

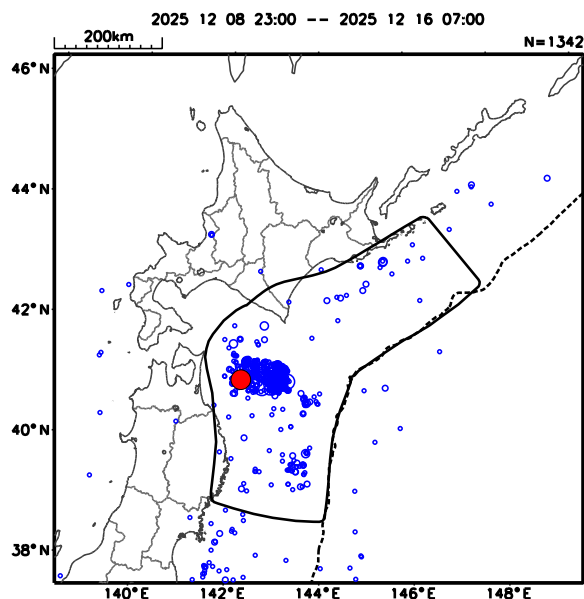
(北海道・三陸沖後発地震注意情報について)

- 12月8日23時15分頃の青森県東方沖を震源とする地震の発生後、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の想定震源域では、新たに後発地震への注意を促す情報を発表する基準を満たす地震は発生していません。
- 12月8日23時15分頃の青森県東方沖を震源とする地震の発生から1週間経過したことから、本日（16日）00時をもって、「北海道・三陸沖後発地震注意情報」発表に伴う政府としての特別な注意を呼び掛ける期間は終了しました。
- 過去の世界的事例をみると、大規模地震の発生の可能性は、最初の地震（8日の地震）の発生直後ほど高く、時間の経過とともにその可能性が低下していく傾向がありますが、最初の地震から1週間以上経過した後に大規模地震が発生した事例もあります。
- 日本海溝・千島海溝沿いにおける地震・津波の発生履歴を見ると、12～13世紀、17世紀と、約3～4百年の間隔で最大規模の津波の発生が確認されており、17世紀の津波からの経過時間を考えると、最大規模の地震・津波の発生は切迫している状況にあると考えられています。
- また、地震調査研究推進本部地震調査委員会の長期評価によると、北海道東部に巨大な津波をもたらすような千島海溝沿いの超巨大地震については、今後30年以内の発生確率はⅢランク（高い）と評価されているほか、日本海溝・千島海溝沿いでは、他にも被害をもたらすような多数の海溝型地震について、今後30年以内の発生確率がⅢランク（高い）と評価されています。
- 日本海溝・千島海溝沿いでは、いつ大規模地震が発生してもおかしくないことに留意し、「日頃からの地震への備え」については、引き続き実施してください。

今回の地震活動

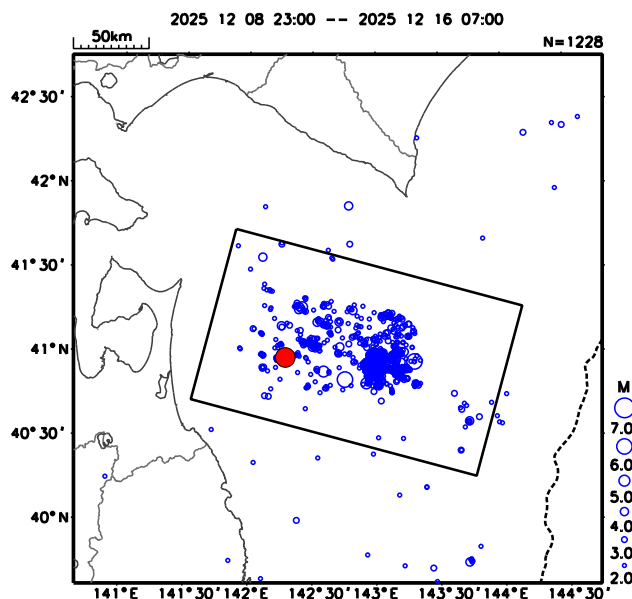
震央分布図（広域図）

深さ0 ~ 100 km M ≥ 2.0

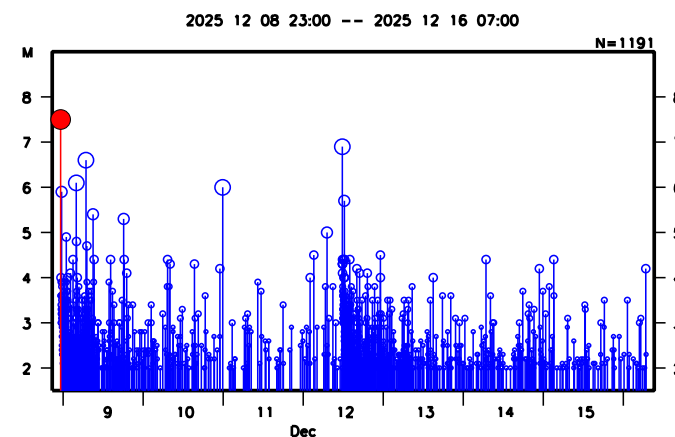


震央分布図（詳細図）

深さ0 ~ 100 km M ≥ 2.0



左図中の矩形領域内の地震活動経過図



（震源の色について）赤色：今回の地震 青色：今回の地震より後に発生した地震

- ・震央分布図中の点線は、海溝軸を示す
- ・震央分布図（広域図）の中の黒色の太線は、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の想定震源域のうちの「日高・三陸沖」及び「十勝・根室沖」の領域を示す

＜資料の利用上の留意点＞

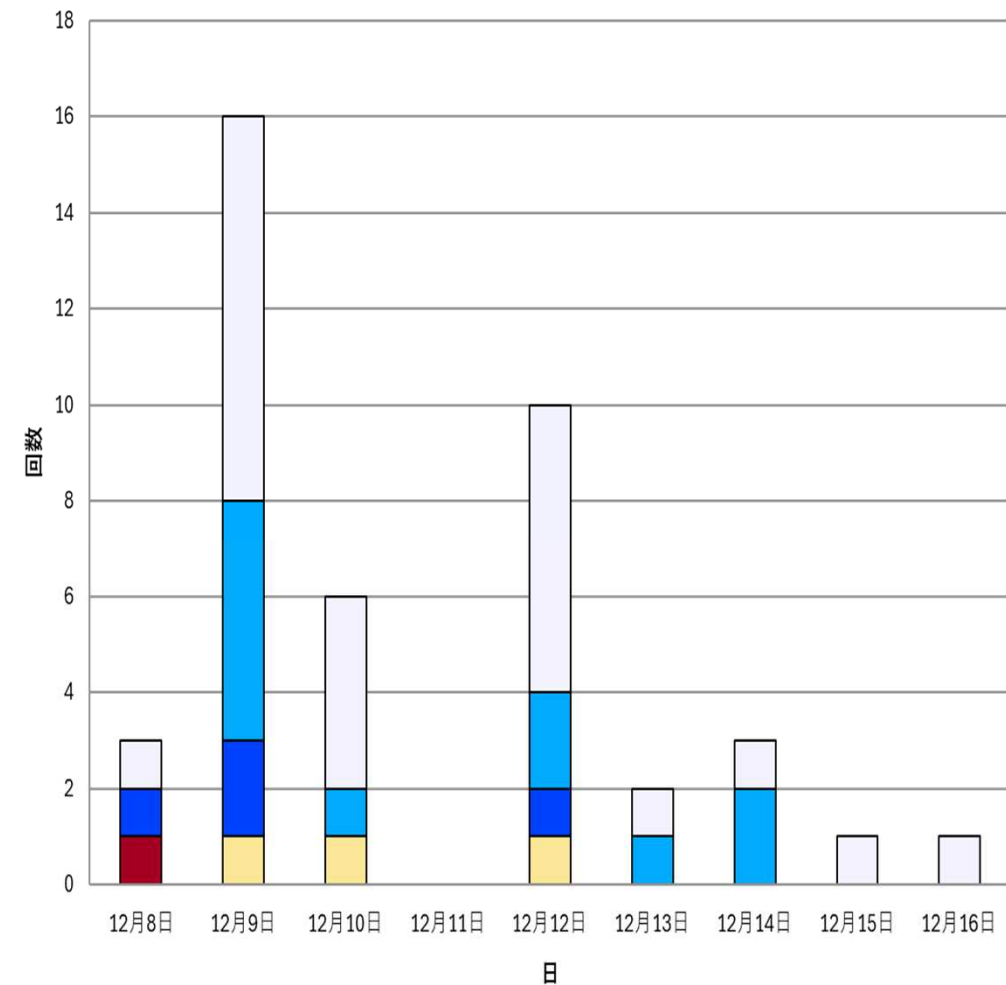
- ・表示している震源は、速報値を含みます。
- ・速報値の震源には、発破等の地震以外のものや、誤差の大きなものが表示されることがあります。
- ・個々の震源の位置や規模ではなく、震源の分布具合や活動の盛衰に着目して地震活動の把握にご利用ください。

震度1以上の地震の発生状況

【最大震度別・日時別地震回数表】
(12月8日23時～12月16日08時)

日別	最大震度別回数										震度1以上を 観測した回数	
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7		回数	累計
12/8 23時-24時	1	0	1	0	0	0	0	1	0		3	3
12/9 00時-24時	8	5	2	1	0	0	0	0	0		16	19
12/10 00時-24時	4	1	0	1	0	0	0	0	0		6	25
12/11 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	25
12/12 00時-24時	6	2	1	1	0	0	0	0	0		10	35
12/13 00時-24時	1	1	0	0	0	0	0	0	0		2	37
12/14 00時-24時	1	2	0	0	0	0	0	0	0		3	40
12/15 00時-24時	1	0	0	0	0	0	0	0	0		1	41
12/16 00時-01時	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	41
01時-02時	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	41
02時-03時	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	41
03時-04時	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	41
04時-05時	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	41
05時-06時	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	41
06時-07時	1	0	0	0	0	0	0	0	0		1	42
07時-08時	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	42
総計	23	11	4	3	0	0	0	1	0			42

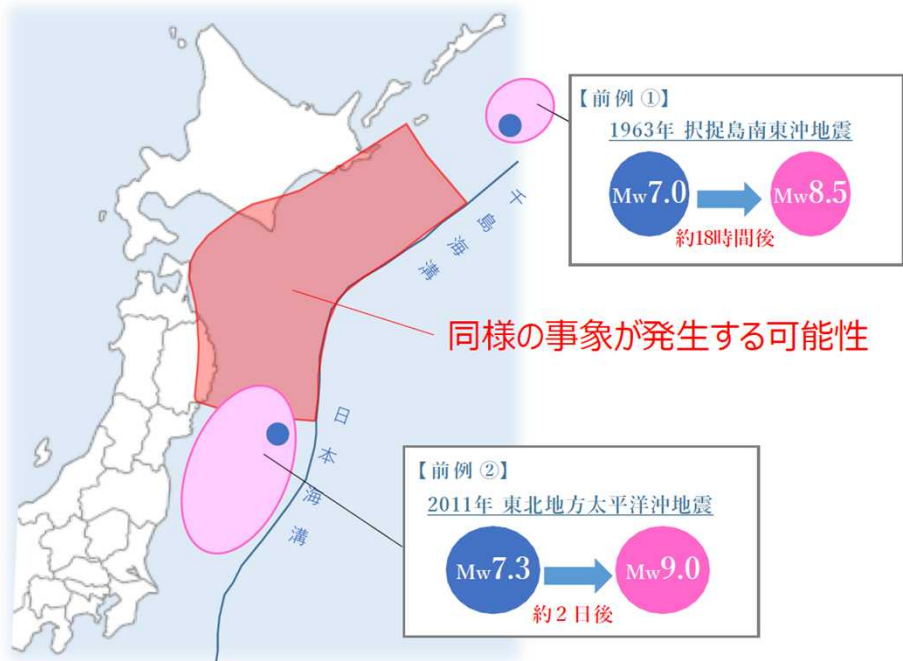
【日別地震回数図】



※掲載している地震回数は速報値であり、後日の調査で変更になることがある。

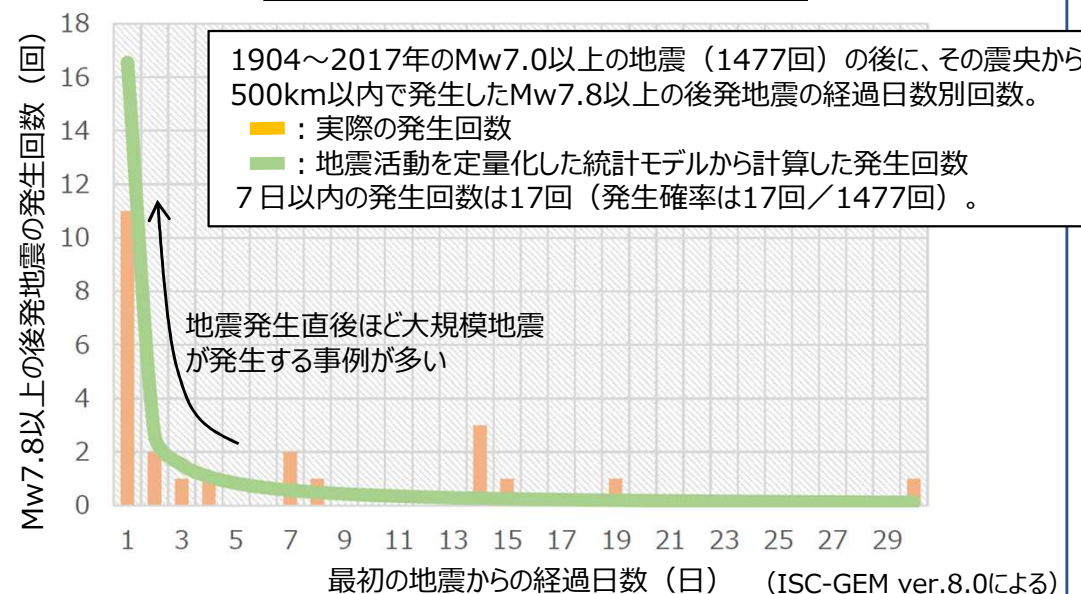
(参考) 地震が続けて発生した事例

日本海溝・千島海溝沿いの事例



- 2011年に三陸沖においてMw7.3の地震が発生した2日後にMw9.0の巨大地震（東北地方太平洋沖地震）が発生。
- 1963年に択捉島南東沖においてMw7.0の地震が発生した18時間後にMw8.5の地震が発生。

過去の世界の事例



- Mw7.0以上の地震発生後、7日以内にMw 8クラス以上（Mw7.8以上）の大規模地震が発生するのは、百回に1回程度。

○「北海道・三陸沖後発地震注意情報」では、後発地震が実際に発生する確率は低いものの、巨大地震が発生した際の甚大な被害を少しでも軽減するために、新たな大規模地震の発生可能性が平常時と比べて相対的に高まっていることをお知らせします。

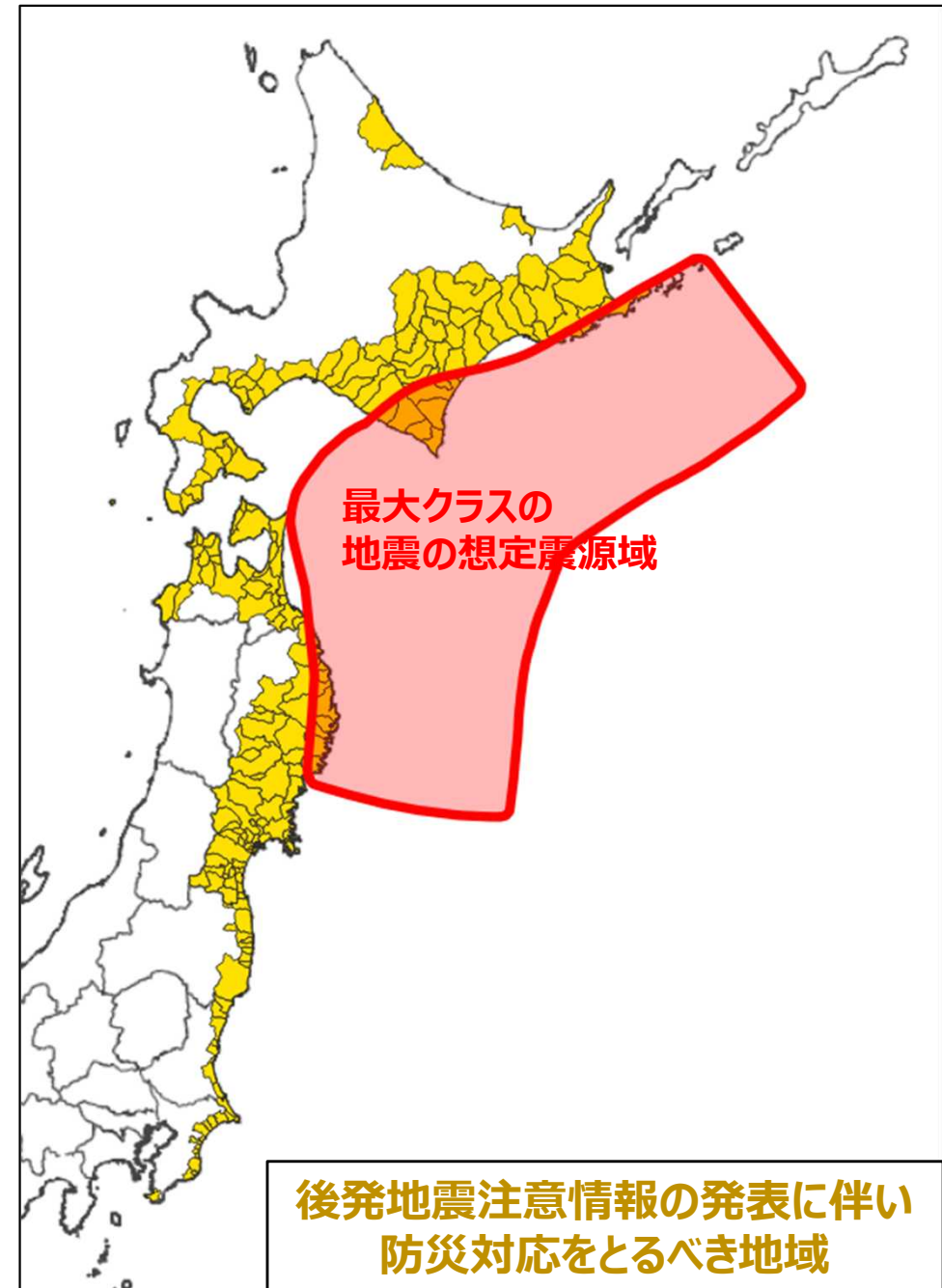
○後発地震が発生する可能性は、先に発生した地震が起こった直後ほど高く、時間を経るにつれて低くなっていきますが、ゼロになるわけではありません。

(参考) 北海道・三陸沖後発地震注意情報について

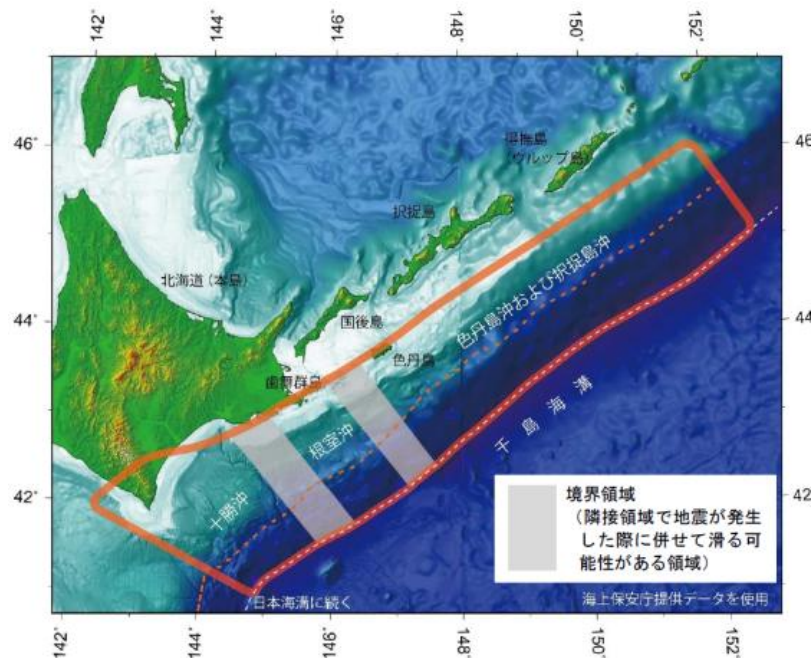
<北海道・三陸沖後発地震注意情報とは>

- 日本海溝・千島海溝沿いの想定震源域で一定規模以上の地震が発生した場合等に、続けて大規模地震が発生する可能性が平常時と比べて相対的に高まった場合に発表される情報
- 運用開始：令和4年12月
- これまでの発表履歴：1回

後発地震 注意情報 発表日	情報の種類	後発地震注意情報 発表のきっかけとなった現象		
		発生日	震央地名 (地震名称)	モーメント マグニ チュード
令和7年 12月9日 02時00分	北海道・三陸沖 後発地震 注意情報	令和7年 12月8日 23時15分	青森県 東方沖	7.4



●千島海溝沿いの海溝型地震の想定領域(注1)



赤枠はプレート間地震に関する評価対象領域で、プレート内地震は赤枠外で発生した地震も評価対象。赤い点線は、海溝寄りの領域を分ける線。

●海溝型地震の長期評価の概要(千島海溝沿い)(注1)

評価対象地震	発生領域	規模	ランク(注2)	平均発生間隔
超巨大地震 (17世紀型)	十勝沖から択捉島沖 (根室沖を含む可能性高い)	M8.8程度以上	Ⅲ * ランク	約340年～380年
プレート間 巨大地震	十勝沖	M8.0～8.6程度	Ⅱ ランク	80.3年
	根室沖	M7.8～8.5程度	Ⅲ * ランク	65.1年
	色丹島沖及び択捉島沖	M7.7～8.5前後	Ⅲ ランク	35.5年
ひとまわり小さい プレート間地震	十勝沖・根室沖	M7.0～7.5程度	Ⅲ ランク	20.5年
	色丹島沖及び択捉島沖	M7.5程度	Ⅲ ランク	13.7年
海溝寄りの プレート間地震 (津波地震等)	十勝沖から択捉島沖の海溝寄り	Mt8.0程度	Ⅲ ランク	39.0年
沈み込んだ プレート内の地震	やや浅い領域(深さ50km程度)	M8.4前後	Ⅲ ランク	88.9年
	やや深い領域(深さ100km程度)	M7.8程度	Ⅲ ランク	39.0年
海溝軸外側の地震	千島海溝の海溝軸外側	M8.2前後	Xランク(注3)	—

(注1) 2017年12月19日公表の「千島海溝沿いの地震活動の長期評価(第三版)」より引用。

(注2) 海溝型地震における今後30年以内の地震発生確率が26%以上を「Ⅲランク」、3%～26%未満を「Ⅱランク」、3%未満を「Ⅰランク」、不明(すぐに地震が起きることを否定できない)を「Xランク」と表記しています。ランクに「*」を付記している場合は、地震後経過率が0.7以上を表しています。

(注3) 海溝軸外側の地震については、過去に発生した履歴が無く、確率は不明です。しかし、評価対象領域の北東側では2007年にM8.2(Mw8.1)が、隣接する日本海溝沿いの領域では1933年にM8.1(Mw8.4)の地震(昭和三陸地震)が発生しているため、同様の規模の地震が千島海溝でも発生する可能性があります。

※本資料は以下を基に作成しました。

「活断層及び海溝型地震の長期評価結果一覧」(地震調査研究推進本部) <https://www.jishin.go.jp/main/choukihyoka/ichiran.pdf>

「千島海溝沿いの地震活動の長期評価(第三版)」(地震調査研究推進本部) https://www.jishin.go.jp/main/chousa/kaikou_pdf/chishima3.pdf